

口永良部島

1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは2 (やや活発な火山活動) でした。

2 概況

火山性地震はやや多く、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

京都大学防災研究所附属火山活動研究センターおよび産業技術総合研究所のGPSによる地殻変動観測では、9月頃から新岳火口付近の膨張を示す変化が観測されています。

また、京都大学防災研究所附属火山活動研究センターと鹿児島地方気象台の観測では、新岳火口付近の熱活動の高まりを示す変化が認められました。

3 噴煙活動の状況

監視カメラによる観測では新岳・古岳からの噴煙は観測されませんでした。

4 地震・微動活動の状況(図2)

10月に入り火山性地震及び火山性微動が多くなっています。

- ・火山性地震の月回数は291回(9月:168回)とやや多い状態でした。
- ・火山性微動の月回数は31回(9月:なし)とやや多い状態でした。

5 上空からの観測(図3)

19日には鹿児島県、30日には第十管区海上保安本部の協力を得て、鹿児島地方気象台が上空からの観測を行いました。

新岳火口付近で高温域が拡大するなど、熱的活動の高まりを示す変化が認められました。

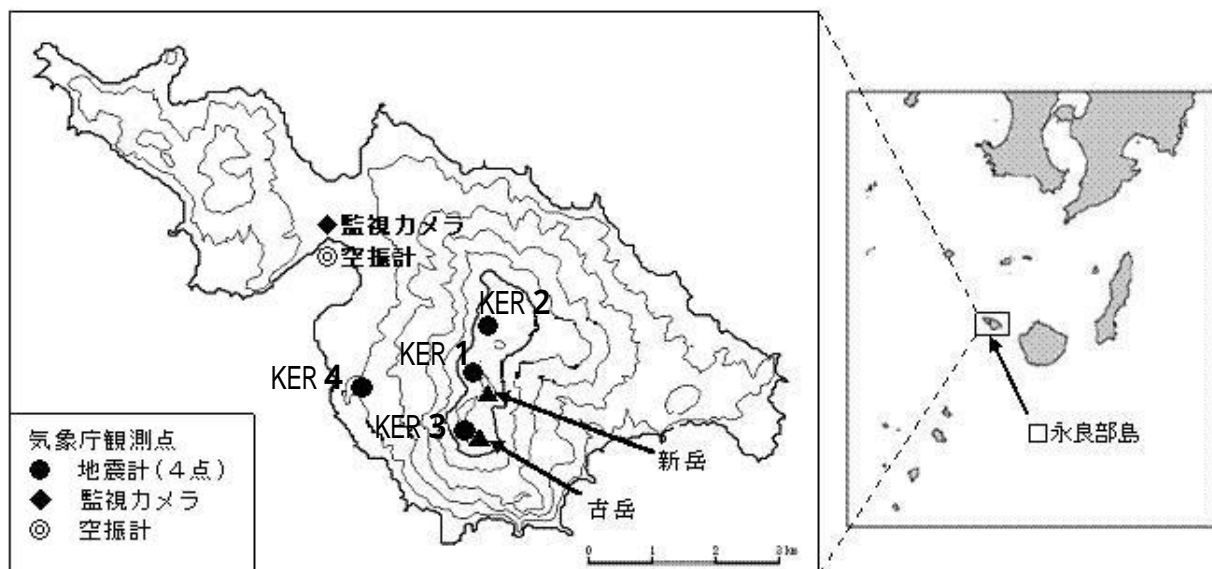


図1 観測点配置図

資料作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを使用しています。また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

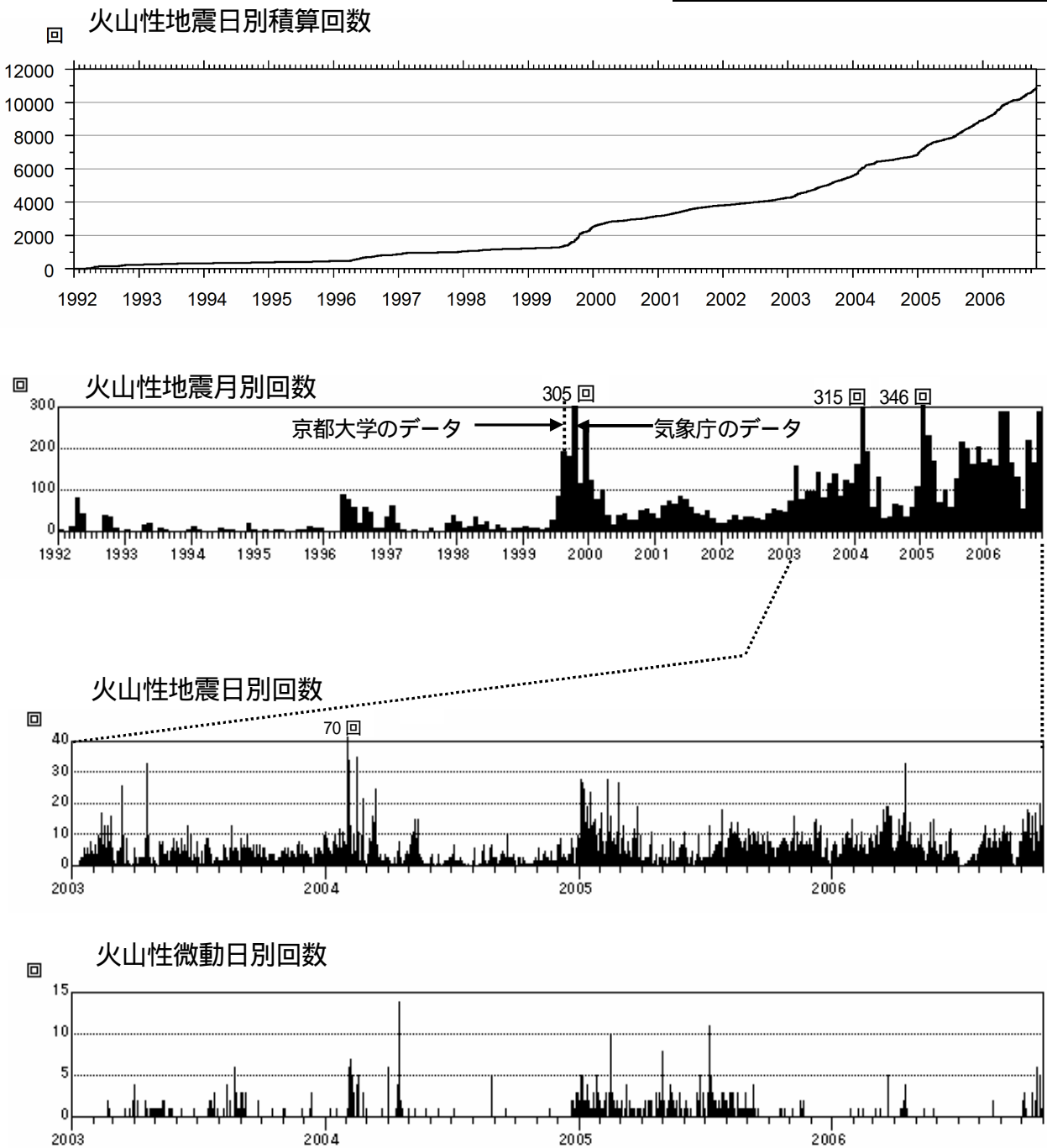


図2 火山活動経過図(1992年1月1日～2006年10月31日)

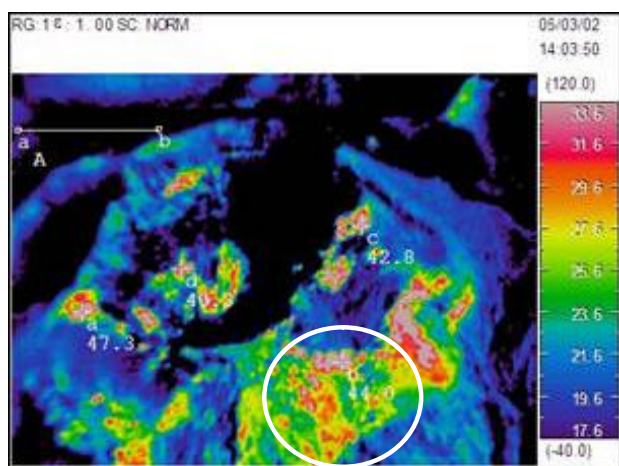
火山性地震は2005年7月以降やや多い状態が続いています。

火山性微動は、2004年12月以降やや多くなり、2005年9月から少ない状態で経過していましたが、10月に入り多くなっています。

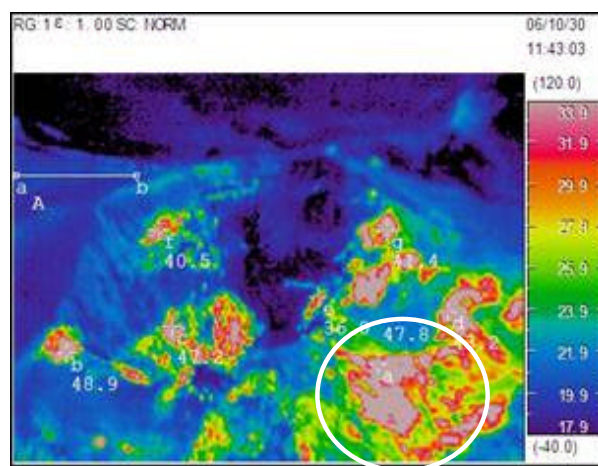
・1992年1月1日～1999年9月12日、2005年12月15～28日は京都大学が口永良部島に設置した観測点で計数したデータを使用しています。



2006 年 10 月 30 日撮影



2006 年 3 月 2 日撮影 熱映像



2006 年 10 月 30 日撮影 熱映像

図3 上空からの観測結果(新岳火口西側から撮影)

2006 年 3 月 2 日と比べて、新岳火口付近で高温域が拡大するなど、熱的活動の高まりを示す変化が認められました(白丸内の熱異常域)。

(表示レンジは熱異常域(図中白線)の平均温度を基準に調整している)